

みんなで考える、これからの放課後。

放課後 マガジン

放課後NPOスタッフが語る
小学生の放課後に関わる
法整備の動き

第4回放課後勉強会レポート

全国に広がる！
放課後NPOアフタースクールの
自治体協働

「学ぶ楽しさ日本一」南あわじ市の挑戦

数字で見る放課後「小1の壁」

創刊号

2023.JULY

放課後マガジン 創刊号 2023. JULY

編集・発行：特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール
〒113-0033 東京都文京区本郷 1-20-9 本郷元町ビル 5F TEL: 03-6721-5043 (代)

放課後 NPO
アフタースクール

対談 人生で一番楽しい時間のひとつが“放課後”であってほしい

こども家庭庁

小倉将信

こども政策担当大臣

放課後NPOアフタースクール

平岩国泰

代表理事

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

本冊子は、日本財団様の助成により作成しています。

「放課後マガジン」 創刊のご挨拶

放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰

1973年生まれの私は昭和の子でもでした。放課後
と言えば、学校が終わると文字通りランドセルをバーン
と玄関で放り投げ、「いってきまーす！」だけで家を飛び
出していました。行く先は公園か神社、約束しないで
行っても必ず誰かいて「何して遊ぶ？」と笑いながら放
課後が始まったものです。色々な学年の子がいて、家庭
の経済状況や保護者の就労有無なんてまったく関係なく
とにかくみんなで遊び尽くしました。地域の人に怒られ
ることもありましたが、今思い出しても、自分たちが主
役だった輝かしい時間でした。

翻って、令和の放課後は悩ましい課題が数多くありま
す。その象徴的な課題が時間・空間・仲間の3つの間(ま)
の不足です。忙しい子が増え、遊ぶ空間は減り、一人で
過ごす子も多いです。費用が必要になる活動も多く「経済
格差が体験格差になる」状況が起きています。学童保育の
不足などから、「小1の壁」という嬉しくない言葉も生ま
れ、放課後の課題は子育て世帯にとって深刻さを増して
います。

子どもたちの、子どもたちによる、子どもたちのため
の時間、それが放課後だったのではないのでしょうか。学
校の時間はクラスメイトと共に定められた計画に沿って
みんなで学ぶことを大事にしています。だからこそ、学
校から放たれた後の時間は、自分で選べて、色々な出会
いに満ちて、予測不能な時間であってほしいものです。
苦手なことを克服する時間も大事だけど、好きなことに
思いっきり没頭する時間も大切です。みんなで同じこと
をする良さもあるけど、それぞれ違う自分らしさを発揮
することも素晴らしいと思うのです。

時計の針は昭和に戻りません。私が経験してきた昭和
の放課後をそのまま再現することはできないけれど、そ
こにあった良さをいかした放課後をこの令和の時代にも
つくれたらと願っています。それは色々な大人の事情で
失ってしまった豊かな放課後を子どもたちに返すことだ
と思うのです。

「放課後はゴールデンタイム」

こども家庭庁が創設された今年、これまで以上に放課
後への関心が高まっています。

放課後NPOアフタースクールも、現場運営や自治体
の放課後事業をご一緒させていただく中で、国の動きや
他地域の事例などを知りたいという声をいただくことが
増え、微力ではありますが情報発信でも各地のお力にな
れたらと考えています。

子どもたちにとって自由で輝かしい時間である本来の
放課後の姿を日本中で実現するために、子どもに関わる
多様なステークホルダーが手を取り合い、それぞれの
地域ならではの放課後をみんなで共創していただけること
を願ってこの「放課後マガジン」を創刊しました。今年度は
全3回発行予定です。どうか皆さま、お楽しみください。

CONTENTS

対談 人生で一番楽しい時間のひとつが“放課後”であってほしい 04

こども家庭庁 放課後NPOアフタースクール
小倉将信 こども政策担当大臣 × 平岩国泰 代表理事

放課後NPOスタッフが語る 小学生の放課後に関わる法整備の動き 06

第4回放課後勉強会レポート 07

全国に広がる！ 放課後NPOアフタースクールの自治体協働 08

「学ぶ楽しさ日本一」南あわじ市の挑戦 09

数字で見る放課後「小1の壁」 10

放課後NPOアフタースクールからのお知らせ 11





昔も今も変わらない
放課後時間の大切さ

平岩…小倉大臣は小学生の頃、どんな放課後を過ごしていましたか。
小倉大臣…私はちょうどファミコン世代なのですが、友達と一緒に外で遊んだ記憶は色濃く残っています。特に思い出深いのは、裏山でやった基地っこですね。今振り返ってみても、人生の中で一番楽しかった時間の一つだったと思います。失敗も重ねながら、人間関係のつくり方や社会性を学んだ、非常に大切な時間でした。

平岩…人生の中で一番楽しかった時間の一つが放課後というのは、素敵なお言葉ですね。そんな小学生の放課後の時間に、大臣はどんな期待をされていますか。
小倉大臣…今の放課後の過ごし方は家で遊んだり、習い事をしたりすることが増えているかと思いますが、私はそれぞれの重要性や必要性を肯定するつもりはありませんが、学校や地域の子どもたちと一緒に遊ぶ放課後の大切さは、今も変わらないと考えています。そういった時間を意識的ににつくっていくことは、今後一層必要になるのではないのでしょうか。

「子どもまんなか社会」の実現に向けて、今できること

平岩…「仲間と過ごす大切さ」ですよ。一方で国が掲げる「新・放課

子どもたちにとって本当に大切な時間である“放課後”。その質と量を合わせて向上しながら子どもたちが心から「居たい・行きたい・やってみよう」と思える放課後の居場所をつくるためには何が大切なのでしょう。子ども家庭庁の小倉将信子ども政策担当大臣に放課後NPOアフタースクール代表理事・平岩国泰がお話をうかがいました。

人生で一番楽しい時間のひとつが “放課後”であってほしい



子どもまんなか
子ども家庭

後子ども総合プラン」は、学校施設の徹底活用を大きな柱としていますが、目標とする水準になかなか届いていません。最終判断をする市区町村自治体においては、現場ならではの課題もありますが、改めて、国としての方針をお聞かせください。
小倉大臣…子どもたちの放課後を守る意味で、放課後子供教室と放課後児童クラブが担う役割は非常に大きいと思っています。「新・放課後子ども総合プラン」では、放課後児童クラブの新規開設の約8割を小学校内で実施することを目指しておりますが、昨年5月時点で、55%に留まっています。そうした中で、昨年度の第2次補正予算にて、放課後子供教室と放課後児童クラブの連携促進の実証モデル事業をスタートさせていただきました。また、先日閣議決定いたしました「子ども未来戦略方針」の中でも、放課後児童クラブの運営を安定させるため、常勤職員配置の改善を盛り込みました。さらに先般、子ども家庭庁と文科科学省で放課後児童クラブと学校の更なる連携強化策の検討を開始しました。子ども家庭庁として様々な施策を着実に実践・実施したいと考えています。

平岩…国の明確で力強い方針をお聞きできてよかったです。では放課後の質と量の向上のため、行政以外の担い手といえる企業やNPOにどのようなことを期待されますか。
小倉大臣…子どもたちの置かれている状況や望んでいることが多様化する中で、行政だけではそのニーズをくみ取ることが難しくなっています。それぞれの子どもたちの状況に応じた放課後の居場所を提供するために、更には「子どもまんなか社会」の実現に向けて、NPOや企業も含めた様々な主体にご参加いただきたいです。また、NPOを重要なパートナーに位置付けるだけでなく、実際に予算を計上したうえでしっかりと連携してもらうため、NPO等と連携した子どもたちの居場所づくり支援モデル事業も実施しております。
平岩…官民がもっと協働してこういうというメッセージは、大変励みになります。先ほどのお話にあった放課後の子どもたちの居場所の重要性は、子どもたちに関わる私たちも心から感じています。

子どもが本当に望んでいる放課後の居場所をつくるために
小倉大臣…放課後の子どもの居場所は、一人ひとりの子どもの社会性、あるいは想像力や創造性を磨くと同時に、健やかな成長を考慮の意味でも重要な空間であり、時間でもあります。また、いじめや不登校、児童虐待など、子どもたちを取り巻く状況が深刻さを増すなかで、学校に行きづらい、家に居づらい子どもに対して、安心だけではなくて、安全にいられる場所を提供することも急務になってきます。そうした意味で、これからの放課後の居場所づくりというのは、大きな政策課題だと思っています。
平岩…小学生の放課後には、物理的な居場所はもちろん、安心できる人がいて、新しい出会いもあることが重要です。居場所の量だけでなく、質も同時に高める必要があります。
小倉大臣…はい。本当の意味での子どもたちの居場所とは、子ども自身が居たいとか、行きたいとか、その中で何か新しいことをやってみたいと思ってもらえるような場所だと思います。子ども家庭庁としては子どもや若者の意見を引き続き大切にしながら、居場所づくりの指針をはじめとする様々な政策を議論していきたいです。

小倉将信 (おぐらまさのぶ)
1981年東京都生まれ。衆議院議員。総務大臣政務官などを歴任し、2022年より内閣府特命担当大臣。2023年4月、子ども家庭庁初代大臣に就任。

平岩国泰 (ひらいわくにやす)
1974年東京都生まれ。2004年に放課後NPOアフタースクールの活動開始。渋谷区教育委員、新渡戸文学園理事長も務める。



子ども家庭庁が掲げる、
子どもの居場所づくりで大切にしたい
3つの視点



子どもの居場所づくりに関する調査研究検討委員会
「子どもの居場所づくりに関する調査研究 報告書
概要」(令和5年3月)より

石巻市子どもセンター「らいつ」は
子どもの権利を柱に、子どもも参加で
運営される児童館。子どもの権利と
して「生きる」「育つ」「守られる」「参
加する」という4つの柱を掲げてい

子ども家庭庁 居場所づくり専門
官の加賀大資さんより、子どもの居
場所づくりに必要なことは、主体性
の尊重だとお話がありました。居場
所づくりという行為は他者が行うも
のでありながら、そこを居場所と感

じめるか子どもたちが決めるこ
と。それを踏まえた上で、子ども家
庭庁では「居たい・行きたい・やっ
てみたい」という3つの視点を大切に
して、居場所づくりの課題に取り組
んでいるとお話いただきました。

つながらずと結論づけました。
子どもの声を受け止める
職員の育成に必要なこと

勉強会の
詳細レポートは
下記のQRコードから!



子どもの声を聴く3つのアイデア

idea 01 「余裕」を見える化して
話しやすい雰囲気をつくる

なかなか自分から声を上げられない子にも
耳を傾けたいという時におすすみたいのが、
子どもが話しかけやすい雰囲気を演出
することです。例えば職員が忙しそうだと
遠慮をして話しかけるのをためらう子も
います。「いま話しかけてもいいよ」という
雰囲気を意図的に出すことで声をかけやす
くなります。

idea 02 話し合いでの質問は子どもたちの身近な
話題・経験から語れるよう具体的に

子ども会議を開催する時に「大人が話してほしい話題」では
本音で話すことが難しくなりがちです。子ども目線の問いかけ
で雰囲気が和らぎ、自然と子どもたちの声を引き出しやすくな
ります。

いつも大人と一緒にやっていることで
本当は一人でやりたいことはある?

歯磨き粉が歯ブラシの
うしろのつる!
(自分でできるの!)

次の日の洋服が
決めておかれる!
(自分で決めていい!)

idea 03 子どもの意見を可視化する

子どもが一步踏み出して表現してくれたことに対しては
「ちゃんと受け止めたよ」とその想いや勇気を尊重します。
例えば伝えてくれたことを書き留めたり、掲示したり、全てが叶わなくても
「聴いているからね」と一人ひとりの声を大切にしている姿勢を見せてい
くことも、子どもが伝えてみようと思えるための大事な大人の役割です。



子どもたちの「やりたい」
を大きな掲示で一覧化

SPEAKERS



子ども家庭庁 成育局 成育環境課
居場所づくり係 居場所づくり専門官
加賀大資さん



石巻市子どもセンター「らいつ」 館長
NPO法人ベビースマイル石巻 代表理事
荒木裕美さん



放課後NPOアフタースクール 代表理事
平岩国泰

そこを居場所と感ずるかは
子どもたちが決めること

私たちは放課後NPOアフタース
クールは、放課後の居場所運営に関
わるスタッフの方を主な対象に「放
課後勉強会」をオンラインで開催し
ています。第4回目のテーマは、「子
どもの声、願いに寄り添った居場所
をつくるには」。行政、現場運営者
と、異なる立場のゲストをお招きし
弊会代表理事・平岩のファシリテー
ションのもと、トークセッションを
行いました。

子どもまんなか! 私たちで描く、これからの放課後
子どもの声、願いに寄り添った居場所をつくるには

第4回放課後勉強会レポート (2023年6月30日開催)

放課後NPOスタッフが語る

小学生の放課後に関わる法整備の動き

子ども家庭庁は、これまでのような大人が中心となってつくってきた社会から、子どもや若者の声をもとにアクション
を起こしていく「子どもまんなか」社会を目指し、令和5年4月に創設されました。
「子ども基本法」など新たな法律も施行される中、今後放課後の子どもたちにどのような変化がありそうか
私たちスタッフでも話してみました。



アフ太さん

今年4月1日に、「子ども基本法」が施行されたね。日本で初めての子どもの権利を包括的に明記さ
れた法律ができたことは、放課後事業者としても大きな出来事だね。この法律に掲げられた子ども施
策の立案・実施を担う行政機関として、同日発足した「子ども家庭庁」が主導していくんだね



アフ太さん

そうだよね。子ども基本法は、全部で20条の条文があるね。第三条はこの法律の基本理念で6項目
ある。子どもに関する施策を行ううえでとても大切な「子どもの権利」について述べられているから
子どもに関わるだれもが覚えておけるといいよね!

私たちが常に意識して小学生の放課後の居場所をつくっていききたいね



アフ太さん

子ども家庭庁ではこれから「子ども大綱」と「子どもの居場所づくりに関する指針(仮称)」
もつくっていくんだよね。まさに私たちの活動にも関わってくるよね

それぞれどういうものなんだっけ?



アフ太さん

子ども大綱は、子ども施策を総合的に推進するために、子ども施策に関する基本的な方針、重要事項を
定めるもので、今年の秋には決定されるらしいよ。子ども大綱ができると、それに基づいて都道府県や
市区町村単位でも、子ども施策についての計画を定めてほしいって子ども基本法には書いてあったよね

そうだね。さらに、子ども施策を策定、実施、評価するときは、「当該子ども施策の対象となる子ども
又は子どもを養育する者その他の関係者の意見を反映させるために必要な措置」を講じましょうって
第十一条にあったのが印象的だったな



アフ太さん

そうそう!これが明文化されていることってとっても大事!次のページでも少し紹介しているけど
私たちが放課後の現場だからこそできる子どもの声の聴き方を大切にしているよね。第十三条には
「都道府県及び市町村は、子ども施策が適正かつ円滑に行われるよう、前項に規定する業務を行う関係
機関及び地域において子どもに関する支援を行う民間団体相互の有機的な連携の確保に努めなければ
ならない」とあるし、地域の中でいろんな立場の人が関わるからこそ、多様な視点が入ってみんな
で子どもの育ちを応援していけるよね

うんうん!本当にそうだよね!立場や役割を越えて共につくるからこそ、年内に閣
議決定といわれている「子どもの居場所づくりに関する指針」もとても重要だね

そうだね。昨年3月に発表された「子どもの居場所づくりに関する調査研究報告書」にあった
「居たい・行きたい・やってみよう」という視点も多くの共感が集まって素敵だし、子ども
たちにとってどんな場であるといいかをみんなで考えられたら、定員とか、就労条件とか大人
側の都合ではない目線で放課後が変わっていけそうだよね。みんなでがんばっていききたいね!



上:ダンスプログラムで楽しく汗を流す、八木小学校の子どもたち
中央:普段大人しい子がカブトムシの話になると饒舌に。子どもの意外な一面がアフタースクールで見える
下:守本市長も子どもたちと一緒にウクレレを演奏

2023年度で4
方もいます。



子どもだけでなく、スタッフの皆さんも楽しみながら取り組んでいる

南あわじ市の
詳しいストーリーは
下記のQRコードから!



南あわじ市 3年間の軌跡

アフタースクール導入でこう変わった

「学ぶ楽しさ日本一」 南あわじ市の挑戦

地域の方と共に子どもを主体的な活動を叶える南あわじ市の取り組みをご紹介します。

地域の中に学び豊かな 放課後の居場所を

南あわじ市は、兵庫県淡路島の最南端に位置し、広い平野で育てる有名な淡路島玉ねぎのほか、鳴門海峡の鯛、沼島の鱧や一本釣りの鱈など海の幸にも恵まれています。豊かな自然環境の中で「学ぶ楽しさ日本一」を掲げる南あわじ市は子どもが地域で多様な学びを得られ

子どもたちが好きなことを して過ごせるように

事業開始当初は新たな市の方針に対し、これまで現場を運営されてきたスタッフの方々から戸惑いの声もありましたが、それぞれ大事にしてきた想いや、やり方を分かち合い子どもの視点でどんな居場所にしていきたくかを手放さずに何度も対話

る居場所づくりを進めようと、放課後事業のあり方を模索。学校を活用することで誰もが利用でき、様々な体験ができる放課後を目指して2019年より放課後NPOアフタースクールとの連携をスタートしました。これまで別々に運営されてきた放課後子ども教室と放課後児童クラブを一体型(アフタースクール)に移行することを打ち出し2026年までに市内全15校区での実施を目指しています。

を重ねました。今では子ども一人ひとりが思い切り好きなことをして遊べる放課後へと変わっていきました。そして南あわじ市の放課後づくりに欠かせないのが、「まちの先生」の存在です。学校周辺地域に暮らす大人がそれぞれの得意な技や知恵を子どもたちに伝え、好きなことを通して子どもを育ちを応援していきます。放課後に新しい出会いや世代を超えて夢中になれる時間を一緒につくってくださるまちの先生は現在、80名以上いらっしゃいます。

年目を迎えた南あわじ市のアフタースクール事業。時々、ウクレレを持って放課後の子どもたちの元へ訪れる市長の守本憲弘さんもアフタースクール事業などの取り組みを通じて、子どもが楽しめる教育環境をつくり、子育て世代のUターンを促したいと語られていました。放課後からできることがたくさんあります。これからの南あわじ市にもぜひご注目ください。

全国に広がる!

放課後NPOの自治体協働

放課後NPOアフタースクールは「放課後はゴールデンタイム」をビジョンに、2009年に設立したNPO法人です。安全で豊かな放課後を日本全国で実現するため、学校施設を活用した放課後の居場所「アフタースクール」を運営しています。また

企業等と連携し、子育て・教育プロジェクトを実施するソーシャルデザイン事業も推進。これらの事業で培ったノウハウを日本全国に広げていくため、自治体と連携して放課後を豊かにする自治体協働事業も行っています。

アフタースクール事業

小学校施設を活用した
アフタースクールを15校運営

自治体協働 事業

自治体と連携し
日本全国の
放課後活性化支援

ソーシャルデザイン事業

企業と連携した教育活動を
全国の300社以上と協働

全国自治体と協働した放課後に係る取り組み

子どもの声
意見聴取

地域連携
促進

体験活動
活性化

安全管理
スキルアップ研修

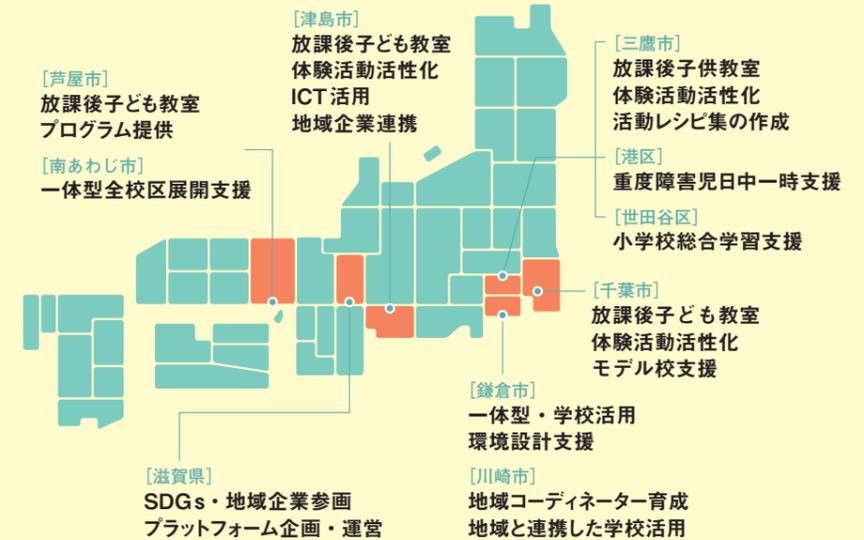
学校活用
環境設計

デジタル化
DX推進

視察・研修
については
こちらから



これまでの
協働事例



2019年に始まった南あわじ市アフタースクール事業支援について、次のページでご紹介します!





放 課後児童クラブの需要は年々高まっており、2022年の厚生労働省の調査では、登録児童数が139万人を超え過去最高に。また報道によると今年5月時点の待機児童数はさらに増え、1.6万人を超えています。一方で、利用できるなかった児童数も増加しており、待機児童は大きな社会問題となっています。

今春特に注目された「小1の壁」とは、小学校入学を機に子どもの放課後の居場所に困り、仕事との両立が難しくなることです。保育園では

延長保育がある場合が多いですが、一般的な学童保育では開室時間が短いこともあり。また、小学生になると、時短勤務制がなくなる企業も多く、子どもの小学校入学を機に働き方の変更を迫られる保護者が多くいるのが現状です。

親が安心して働くために必要なことは？

この実態は、放課後NPOアフタースクールのWEBアンケート調査でも明らかになっていきます。例えば、子どもの小学校入学にあ

たって、過半数の方が「働き方の見直しを検討(50.7%)」し(調査結果1)、全体の37.9%が実際に働き方を変えたと回答。そのうち約4割が、時短勤務への変更や正社員から別の雇用形態へ変更するなど、育児と仕事のバランスを考えた、柔軟な働き方を求めて就労形態を見直していました(調査結果2)。

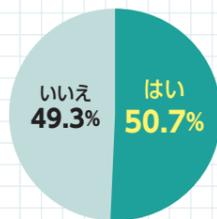
さらに小学校入学にあたって半数以上の方が負担や悩みが増えたと感じています(調査結果3)。

働きながら子育てするのが大変だと感じつつも、95.8%が今後働き続けたいと考えていることが分かりました。また、働く理由は「家計のため」が87.8%、次いで「老後資金のため」が47.9%となり、後資金のため(4)も小学生の子どもの育児の両立に悩み、家計を支えるために働いている姿が浮き彫りとなった結果です。そして、子育てと仕事の両立には「配偶者の理解」と仕事の両立には「配偶者の理解(67.1%)」、「放課後の子どもの居場所(53.6%)」、「職場の理解(67.1%)」、「放課後の子どもの居場所(53.6%)」、「職場の理解(67.1%)」が重要というニーズが見えてきました(調査結果5)。

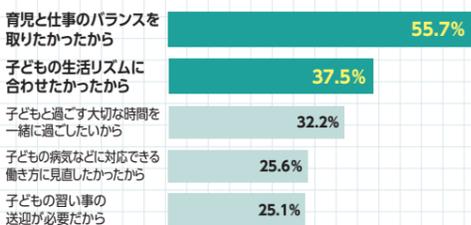
子育てをしている家族に必要なのは、パートナーや職場など、周囲の人からの「理解」。そして、子ども一人ひとりに「居たい・行きたい・やってみたい」と思える居場所があるからこそ、親は安心して働くことができます。「小1の壁」解決には行政・企業・家族、いずれにおいてもこの課題に向き合い、社会全体での変化が求められています。

放課後NPOアフタースクールの調査からも見えた「小1の壁」の実態

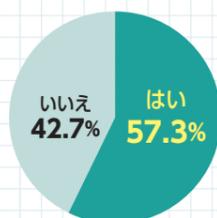
調査結果 1 子どもの小学校入学にあたって、働き方の見直しを検討しましたか？ (n=1000)



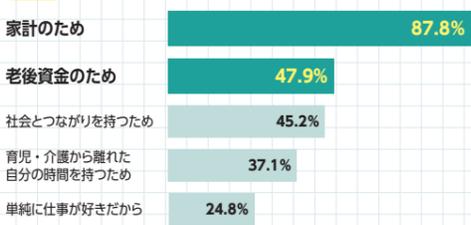
調査結果 2 働き方を変えた具体的な理由をすべてお答えください (n=379、複数回答)



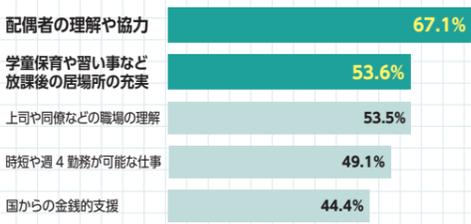
調査結果 3 子どもの小学校入学で、子育ての負担(や悩み)が増えたと感じましたか？ (n=1000)



調査結果 4 あなたにとって働く意義をお聞かせください (n=1000、複数回答)



調査結果 5 子育てと仕事の両立のために必要だと感じることを教えてください (n=1000、複数回答)



対象者：小学生1年生～6年生の子どもがいる働く女性(埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県)
調査期間：2023年2月22日～2月26日
調査方法：インターネットアンケート調査会社のモニターを利用したWEB調査
有効回答数：1,000件

INFORMATION

放課後NPOアフタースクールからのお知らせ

アンケート

皆さまの声をお聞かせください！

『放課後マガジン』創刊号を手にとりいただき、ありがとうございました。冊子・記事内容についてぜひご意見をお聞かせください。今後の記事づくりに活かしてまいります。

- 今後取り上げてほしいテーマ
- 気になる自治体の取り組みや、取材してほしい自治体の取り組み(自薦他薦問わず)

● アンケート締切：2023年8月11日(金) ● アンケートフォーム：<https://forms.office.com/r/DWQxH3QpIX>

アンケートフォーム



お知らせ

第5回放課後勉強会を開催いたします。

タイトル：**地域人材の活躍・地域連携で子どもの育ちを支える**
日時：2023年10月20日(金) 10:00～12:00
オンライン開催
参加費：無料
※日時・内容等は変更になる可能性があります。詳細は、団体HPにて9月頃に公開を予定しています。

講演・研修

放課後NPOアフタースクール代表 平岩国泰による講演を随時受け付けています。



<これまでに開催した講演・研修(一部)>
・つくば市総合教育会議(茨城県)
・中部地区協働活動支援員等研修会(群馬県)
・庄内青少年健全育成研修会(山形県)
・埼玉県放課後子供教室研修(埼玉県) 他
ぜひお問合せください。

視察、研修について

各自治体や現場のニーズに合わせて視察・研修や伴走支援を行っております。まずはお気軽にご相談・お問合せください。支援メニューはこちら▶



次号予告

『放課後マガジン vol.2』は、10月発行予定です。
特集テーマ：「地域連携と学校施設活用」

北海道安平町立早来学園レポート、川崎市・三鷹市事例紹介、自治体向けイベント(大阪開催)レポート他、ぜひ次号にもご注目ください。